

災害時の物資供給協定締結式 10月19日



市とイオン九州間で、「災害時における物資の供給に関する協定書」の締結式が行われました。

この協定は、万一大規模災害が発生したとき、イオン九州から市へ食料品や日用品などの救援物資の供給を受けるため、事前の取り決めを定めたものです。通常の救援物資の「備蓄」は行わず、物資の保管スペースや賞味期限切れなどによる買い替えコストがからまない「流通備蓄」の方法で、市としては初めての取り組みです。

イオン九州と災害時の協定を締結

おおむら市民のつばさ 10月10日～12日



韓国在任の長崎県人会や日本に留学経験のある地元の人たちとの交流も深めました。なお、長崎・ソウル線定期便は、月・木・土曜日の週3回1往復運行で、片道1時間30分でソウルまで結んでいます。

長崎空港ソウル線の利用促進を図るため、韓国・ソウルを巡る団体ツアー「おおむら市民のつばさ」を実施しました。久保副市長を団長とする52人の参加者の皆さんは、ソウル市内の世界遺産見学をはじめ、観光やグルメ、ショッピングなどを楽しみました。また、

韓国・ソウルの旅を満喫

おおむら歴史講座 10月19日



市学芸員が、おおむら歴史講座「薩長同盟と大村藩」龍馬と日本を動かした偉人たち」と題して福岡市で研修会を開催しました。

来場された40人の参加者は、メモを取りながら熱心に耳を傾け、「大村藩と幕末の関係がよく分かった。一度訪れたい。」大村が日本の歴史に影響を与えた事を初めて知った。などの感想があり、満足されたようでした。また、大村の特産品を味覚で知ってもらおう、おおむら夢ファーム シュシュの「フルーツジュースとジャム」の試食会も行いました。

福岡市でおおむらの歴史をレクチャー

競艇発祥の地記念館 10月16日



大村市は、全国で初めて競艇が開催された地で、今年で57年目を迎えました。その半世紀以上の歴史の歩みを振り返る写真パネルや物品、モーターやプロペラなどの部品を展示しています。施設は博物館をモチーフにして建てられ、入館は無料です。

大村競艇場、表入場門横に「競艇発祥の地記念館」がオープンしました。記念式典では松本市長、廣瀬市議会議長をはじめ競艇功労者のご家族によるテープカットが行われました。

半世紀におよぶ大村競艇の歴史を展示

市長定例記者会見 10月27日



市政の重要課題や市内で開催されるイベントなど、報道を通じて積極的に情報提供し、広く市民に知ってもらおうと、市長定例記者会見を始めました。

この日は、広島、長崎両市による2020年夏季オリンピックの共同開催を目指した招致活動の支援や、中心市街地活性化計画など5つの項目の発表を行い、集まった報道機関各社の質問に答えました。市長定例記者会見は、今後も、月1回開催を予定しています。

積極的な情報発信を目指して

大村マイツリー活動 10月18日



26組の家族・団体は、それぞれ作成した手書きのネームプレートを用意し、マイツリーに取り付けたあと、前回の会員の皆さんと一緒に国道の清掃活動を行いました。

新しくなった国道34号の街路樹(サクラの木)にネームプレートを取付けてマイツリーとしてお世話するボランティア活動「大村マイツリー活動」(主催：NPO法人道守長崎)が行なわれました。今回2回目となるこの活動に参加された

マイツリーでボランティア活動